

## 市長の窓

しげ のぶ  
**滋宣の**

ほう ちゅう かん あん ちゅう めい

“忙中閑あり暗中明あり”

その 19

～麗～

「春のうららの隅田川…」は滝廉太郎の作曲による「花」の一節です。春の太陽がのどかに柔らかく照っている様子、日差しの美しさを表わす言葉です。季語としては「麗か」「うらうら」などともいいます。

冬が過ぎ、春らしい日の長さを表す言葉に「日脚伸ぶ」や「日永」、「遅日」、「長閑」などがありますが、表現は違うものの、春を迎える喜びに溢れています。

うらうらに照れる春日に雲雀あがり  
ひよしのひながり  
情悲しも独りしおもへば  
おどものやかもち  
(大伴家持)

春の日差しを浴びながら、どこか憂いを感じるのは、春のけだるさがもたらすものかもしれません。

ちなみに、秋晴れの日のうららかさは「秋うらら」「秋麗」、冬晴れの日のうららかさは「冬うらら」「冬麗」といいます。

能代市長 齊藤 滋宣



2月12日、慶應義塾大学  
バスケの街スタディツ  
ア「」で学生と意見交  
する齊藤市長。